

生産 — 果樹 —

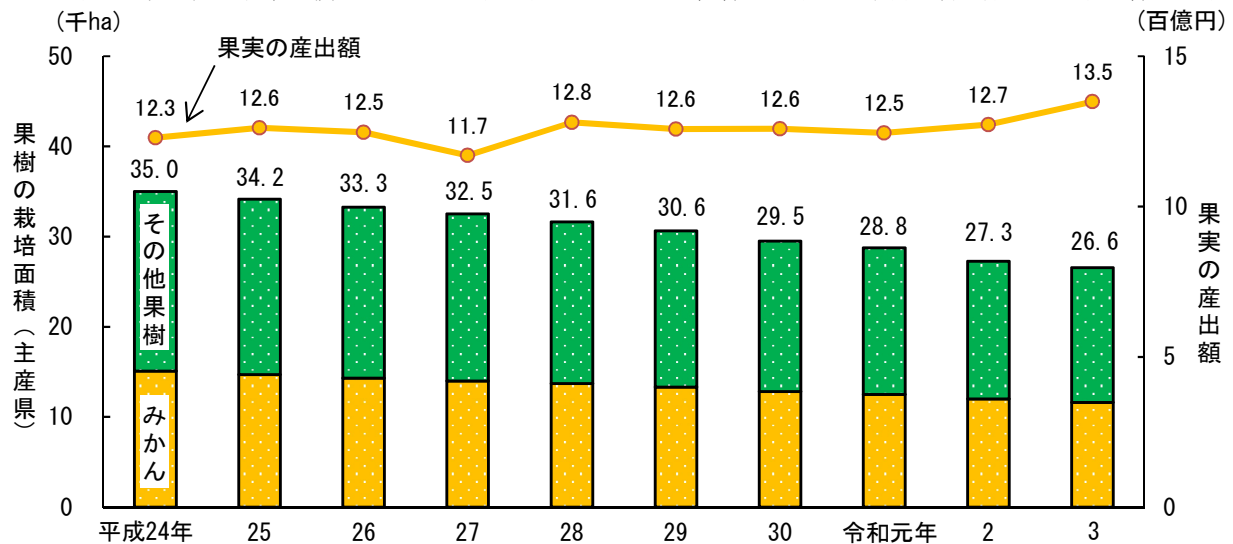
【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は微増】

九州における果樹の栽培面積（主産県*）は、高齢化や担い手不足による栽培農家数の減少に伴う緩やかな減少傾向にあり、令和3（2021）年は2万6,600haとなっています。一方、果実の産出額は、1,349億円とやや増加しました。この背景として高品質な果実が生産されていることや、需要の減少よりも生産量が減少していることが考えられます。

九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積が1万1,100haで前年産に比べ400ha（3.5%）減少する一方、熊本県において8月の降雨により肥大が良かったこと等から、収穫量は24万600tで前年産に比べ1万5,900t（7.1%）増加しています。また、九州の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で8割近くを占めています。

その他果実の産出額は、ぶどう160億円（全国の8.4%、福岡県全国5位）、不知火（デコポン）119億円（同70.4%、熊本県同1位）、日本なし111億円（同16.0%、福岡県同7位、大分県同8位、熊本県同9位）、マンゴー46億円（同65.7%、宮崎県同1位、鹿児島県同3位）となっています。

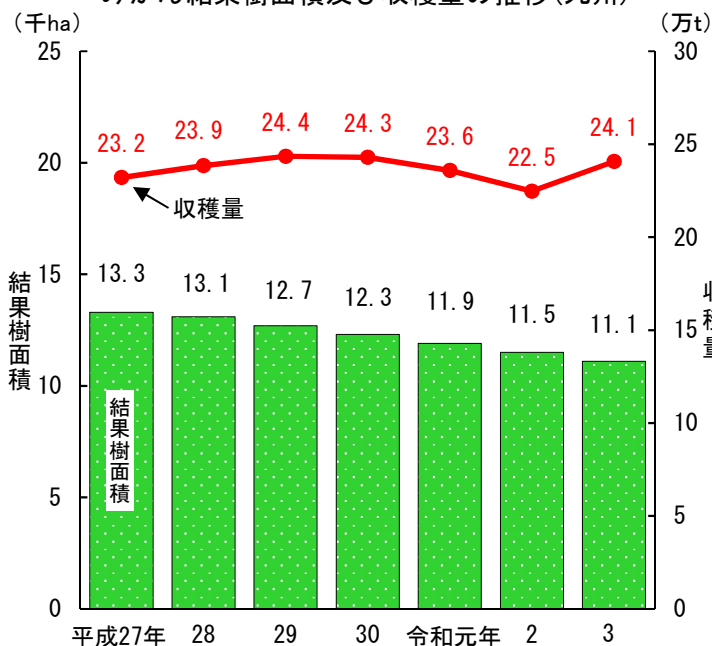
* 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

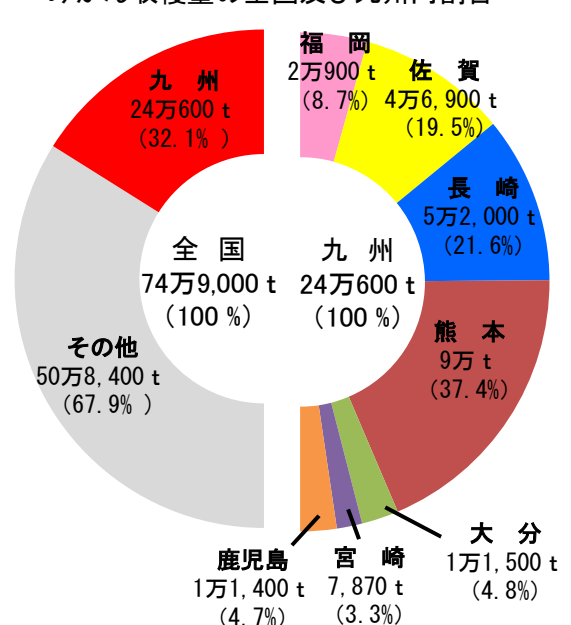
注：その他果樹は、その他のかんきつ類、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも

みかん結果樹面積及び収穫量の推移（九州）



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

令和3年産 みかん収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

注：全国地域別は、農政局毎の割合を表示しています。